



テーブル・ベンチがリフレッシュ

庄原ロータリークラブによる社会奉仕活動・5/22 No.5

中央児童公園で、庄原ロータリークラブの皆さんが社会奉仕活動の一環として、同クラブが平成27年に寄付したテーブルや平成28年に座板を交換したベンチに防腐剤の塗布を行いました。

板の表面をやすりできれいにしてから、一回二回と塗り重ね、一つ一つ丁寧に仕上げていきました。作業後には、表面が傷んでいたテーブルやベンチは、すっかりきれいな姿になり、みんなが安心して使える状態になりました。

中岡幸子会長は「きれいになったテーブルとベンチを皆さんに使っていただきたい」と話していました。



▲ベンチを修繕する庄原ロータリークラブ会員

交流を通じて地域の活性化

農業体験学習「トマトの定植」・5/28 No.7

八鉾自治振興区で農業体験学習が行われ、広島経済大学興動館カフェ運営プロジェクトに携わる学生25人が参加しました。この活動は、農業について学び、食材への理解を深めるとともに、若者世代の意見を地元へ伝え、地域づくりと地域の活性化につなげる目的があります。学生は八鉾自治振興区の定木文宣会長からトマトの品種や植え方などを学び、畑に次々と苗を植えていきました。昼食には、学生と地域の人が共同してトマトピザやスパゲティを作りました。午後には学生と地域の人の意見交換会も開かれました。

参加した大林雅典さんは「今回の活動を通してさまざまなことを学んだ。今後の活動へとつなげていきたい」と話していました。



▲畑にトマトの苗を植える学生

介護人材確保を市内で連携

「庄原市介護人材確保等協議会」設立総会・5/23 No.4

少子高齢化による介護現場の人材不足を、今後どのように解決していくかを考えるため、市内の介護事業所が一体となり、「庄原市介護人材確保等協議会」が設立されました。設立総会には、市内で老人ホームなどを運営する法人や介護事業所の代表者ら18人が出席し、市内の介護職場の人材確保などに、連携して取り組むことを確認しました。

設立総会終了後には第1回目となる「報酬改定」研修会が開催され、参加した市内介護事業所の職員ら40人が、合同学習による意識統一を図りました。

今後も、定期的な研修会や活動が行われ、介護職員の確保・定着・育成の取り組みを進められます。



▲協議会の会長に選出された西城・愛善苑の土井苑長

無料エリアを活用して

第1回庄原里山マルシェ・5/27 No.6

ハンドメイドのアクセサリやピザ、焼き菓子、アイスクリームなどを販売する「庄原里山マルシェ」が、社会実験として無料開放されている国営備北丘陵公園の北入口エリア「里山の駅 庄原 ふらり」で初めて開催されました。当日は、県北の事業者や個人など8店舗が出店しました。心地よいBGMが流れる会場の中で、会話を楽しみながら買い物をする人や、芝生で遊ぶ子どもたちの姿が見られました。三次市から訪れた女性は「公園内にこのようなすばらしい無料のエリアがあるので今回のイベントで初めて知った。次回もまた来てみたい」と楽しそうに話していました。

このイベントは、備北丘陵公園北エリア運営協議会が主催し、今後も定期的に開催される予定です。



▲マルシェブース

地域に伝わる伝統芸能

塩原の大山供養田植・5/26-28 No.1

東城町塩原の石神社前の田んぼを主会場として、「塩原の大山供養田植」の4年に1度の公開が行われました。塩原の大山供養田植は、牛馬の安全や五穀豊穡を願う大山信仰と、太鼓や歌でにぎやかにはやし立てながら田植を行う「囃子田」が結びついたもので、古い形式を残していることから平成14年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

今回の公開は大山開山1,300年と重なったこともあり、「供養田植」の保存と継承に取り組み、中心となって準備を進めてきた小奴可地区芸能保存会の皆さんは、特別な思いでこの日を迎えたそうです。

26日には翌日の田植えで使う苗を抜き取る「苗取り」の行事が行われました。

27日にはメインとなる「牛せり」「田植踊り」「供養行事」「しろかき」「太鼓田植」の5行事が行われ、市内外から約1,500人が来場しました。来場者は、華やかな田植踊りや古式ゆかしく行われる田植行事に目を奪われ、夢中になってカメラのシャッターを切っていました。

28日には多飯ヶ辻山の山頂近くにある大山神社へ供養札を奉納する、「お札納め」が行われ、一連の行事が終了しました。



▲飾り牛11頭によるしろかき



▲早乙女が田植唄と太鼓に合わせて横一線に苗を植える太鼓田植

海外姉妹校との交流

東城高校海外姉妹校交流会「清掃活動」・5/18-19 No.3

東城高校の海外姉妹校である台湾の三民高級中学の皆さんが来日し、東城高校の生徒と交流をしました。

1日目は歓迎式典や交流会を行い、東城高校生徒のよさこい踊りや、ペンライトパフォーマンス、吹奏楽部の演奏、そして三民高級中学の皆さんの踊りや歌などが披露されました。2日目は交流授業を行った後、両校生徒は英語でコミュニケーションをとりながら、JR東城駅の掃き掃除・窓拭き・すす払いなどを行いました。東城高校の生徒は「台湾の皆さんはとても丁寧に清掃してくれた」と話していました。

清掃活動後、三民高級中学の皆さんは東城の街並み散策を楽しみ、帰国しました。



▲清掃活動を行う東城高校と三民高級中学の皆さん

高齢者自らが取り組む

活動推進協議会設立総会・6/5 No.2

ウイル西城ホールで、西城地区高齢者交通安全モデル地区活動推進協議会設立総会が行われました。この総会は、モデル地区における住民主体の計画的かつ効果的な交通安全活動を推進し、高齢者の交通事故防止を図ることを目的としています。

総会では、庄原市の高齢化率や交通死亡事故の発生状況について話した後、交通事故を防止するために、衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置などが搭載された安全運転サポート車の利用や反射材の着用を促しました。西城地区老人クラブ連合会の伊達栄之会長は「交通事故は被害者でも加害者でも不幸になる。今後2年間モデル地区として無事故を目指していきたい」と話していました。



▲西城地区交通安全モデル地区活動推進協議会設立総会の様子



繊細な摘果作業

りんごづくり作業体験・5/25

No.9

高野小学校のりんごづくり体験授業（摘果作業）が高野町下門田地区のりんご園で行われ、5年生12人が参加しました。

天候に恵まれたこの日、児童は枝の先に付いている複数の実の中から中心の実を残し、周りの実を摘むという細かい作業に苦戦していましたが、限られた時間でたくさん体験したい児童たちは摘果できる枝を見つけると順番待ちをしていました。作業体験をした高野小5年生の種元幸星くんは「摘果作業は楽しかったが、一つの木でもたくさんの摘果作業が必要なことが分かり、りんご農家の人はとても大変だと感じました」と話していました。



▲摘果作業を体験する児童

手と手で地域をつなぐ

抱きしめて笑湖ハイヅカ・5/4

No.8

総領町の田総の里スポーツ公園で「第9回抱きしめて笑湖ハイヅカ」が開催されました。このイベントは、平成22年に、灰塚ダムにまたがる庄原・三次市民有志が、ハイヅカ湖周辺地域を活性化させるために始めました。

当日は、地域の子どもたちをサイドカーに乗せた大型バイク「ハーレーダビッドソン」の入場や、カラオケ・各種団体による出店があり、大勢の人でにぎわいました。正午には、参加者約100人が手をつなぎ、手配したヘリコプターに手を振りました。

宮崎文隆実行委員長は、「来年の5月4日には、全国各地の賛同者100万人が、笑顔で手をつなぐ企画に挑戦したい」と話していました。



▲約100人の参加者が笑顔で手をつないだ

新緑広がる吾妻山

吾妻山山開き・6/3

No.11

第48回吾妻山山開きが比和町の吾妻山池ノ原で開催されました。同町の最北端で島根県境にある標高1,239メートルの吾妻山は、比婆道後帝釈国定公園に指定されています。イザナミノミコトが比婆山に眠る妻イザナミノミコトを、山頂で「ああ、吾が妻よ！」と追慕したことから山名がついたとされています。神話と山野草の宝庫「吾妻山」には、毎年多くの登山客が足を運んでおり、この日も鮮やかな新緑広がる初夏の景色を堪能しようと、市内外から約1,500人が来訪。

天候にも恵まれ、地域の方の協力のもと行われる恒例の凧あげ大会や各種バザー、神楽や同時開催された比和自然科学博物館公開講座「草花ウォッチング」でにぎわっていました。



▲吾妻山を堪能する登山客

手作りの真空管アンプを楽しむ

手作り真空管アンプの会・6/3

No.10

〇和郷土資料館で、本年度10年目になる、球楽達人きゅうがくの会による「手作り真空管アンプの会」が開催されました。

この会は、個性豊かな真空管アンプを、オーディオ愛好者が手作りして持ち寄る会で、市内外から110人が参加しました。当日は10台の真空管アンプが集まり、参加者はそれぞれのアンプを通して流れる「クラシック」「ジャズ」「歌謡曲」などの素晴らしい音楽を熱心に聴いていました。また、「課題曲」を設定し、聴き比べも行われました。

休憩時間には、「〇和産のシフォンケーキ」とコーヒーが振る舞われ、熱心なオーディオ談議で盛り上がっていました。参加者は、「来年も、ぜひ参加したい」と話していました。



▲市内外からたくさんのファンが集まる